

一 般 質 問

Q 災害に強い国道232号の強化と安全対策について



村井 議員

一、7月の大雨による法面の崩落により、国道232号が3日間にわたり通行止めとなり、通学、通勤、物流などにおいて多大な被害がありました。また現在は応急復旧の状態であり、完全復旧までは再び通行止めになる恐れがあります。

国道232号は、鬼鹿地区の住民はもちろんのこと、小平町以北の自治体の住民にとっても大変重要な路線であり、強化化について町長は先頭に立って関係官庁に要請を行っておりますが、現在の状況をお聞かせ願います。

また、迂回路としての道道大榎線の整備状況についてもお聞かせ願います。

A 引き続き管内連携を取って要望、要求したい

町長 関 次雄

一、国道232号の現在の復旧状況ではありますが、現在は本復旧に向けた準備作業を実施している。

国の関係については7月の豪雨ということで国の大幅な予備費を使って全道各地を国内、西日本も含めた中で災害復旧に充てるということ、この国道232号もこの中に入っています。

国道232号は、管内の大動脈路線であり、地域住民の通勤、通学、通院などの通行時に安全安心確保する必要があることから、今後強化に對しまして引き続き関係機関にさらなる早期復旧、また早期完成を管内連携を取ってその中で関係官庁に要望、要求をしていきたいと思えます。

道道大榎線は、30年度は基層、上層舗装工を実施し、31年度に表層舗装し完成予定となっております。

Q 一、災害対策について



山内 議員

一、災害対策についてと言う事で、

①平成26年8月発生の豪雨による鬼鹿地区の水害について河川管理者の留萌建設管理部と協議して対策を進めるとしていましたが、港町1区は別途排水路を構築し、今年7月の豪雨では災害の発生はなかったが、港町3区の対策を伺います。

②7月の豪雨では土木災、農業災ともに河川に關係した災害が多く、前から言われている河川敷地内の立木が大きな原因とも考えられるが今後の対策を伺います。

③今回の胆振東部地震の震度7で4年に1回は震度7が発生している。特に今回は全道停電という情報入手が困難な状況が起きました。今後の非常時に向け、情報伝達等の方法を伺います。

二、町長は2期8年間で志半ばと言っておりますが、8年間で取り組んだもの、3期目で推進したいまちづくりについて伺いたい。

A 防災力の向上に努める

町長 関 次雄

一、3区地区については早急に留萌建設管理部と協議しながら安心安全をきちんと整える対策を進めたい。

河川の立木伐木は計画をつくり年次でやっていくよう進めているところで、活用する制度も見つかりましたのでやっていきたい。

今回の胆振東部地震での反省点は多々あります。地域住民が災害に備えることが大事なので、自助の精神とこれを即すための公の役割をきちんとしていきます。

二、ハード事業では道の駅を中心とした観光拠点の再生、民間賃貸住宅の整備促進、鬼鹿小学校改築、農業生産資材への助成、漁業組合構築に対する支援。ソフト事業では幼稚園・保育料の無償化、高校生までの医療費無償化、給食での地場産品の活用などに取り組んできました。また職員の資質向上、意識改革を継続的に行ってきています。今後は、現場主義を貫き、まちづくりの主役は町民であると皆様の意見を聞いて、後世に引き継ぐべくわが町にとって必要な施策を実施して行きたい。